



ももの実

玉北中 校長だより 31

「チャレンジしよう。」

作成日 令和8年6月2日(火)



月曜の朝は・・・

6月1日(月)には、3年生全学級と9・10・11組で、地域ボランティアをお招きしての『読み語り』を実施しました。それでは、今回参加したボランティアの方からのコメントを紹介します。

3年1組 西 誓子 先生
「生きる」

今の積み重ねで今に繋がり、それがつながって未来ができていく・・・そう思うことができる詩。

3年2組 瀧澤 依子先生

「ちきゅう 45おく4000まんねんの おもいで」
45億4千万年前に生まれた地球。空気・植物・恐竜・動物、そして20万年前に人類が誕生。

3年3組 西原 郁子 先生

「うちのおかあちゃん」
目が不自由、言葉が丁寧ではない、いじが悪いがガッツがある母と娘のエピソード本です。

3年4組 西野 恵子 先生

『し』の字の嫌いな旦那様

総社市に伝わる昔話？とんちの効いた方言が満載の2人のやりとりをご視聴あれ。

3年5組 森本真紀子 先生

「ひつじの王様」

権力者への揶揄(やゆ)と皮肉について、王政をパロディーにして語られる絵本です。

3年6組 渡辺 仁子 先生

「ロバのシルベスターとまほうのこいし」

3年生となり、自分の道を進み始める皆さんに届けたい絵本です。親の愛情ストーリー。

3年7組 渡辺 洋子 先生

「自分の木」

わたるのいちばんの友達『伝じい』は、誰にでも『じぶんの木』があると最後に話してくれた。

10組 藤本 恵子 先生

「カエルの目だま」

カエル・ギンヤンマ・ミズスマシたちが、それぞれ自分の目玉が一番だと自慢し合う。

9・11組 橋本 易子 先生

「Five Little Monkeys Jumping on the Bed」

ベッドで飛び跳ねているやんちゃな子ザルたち。1匹ずつベッドから落ちて頭を打ちます・・・。

倉敷を舞台に・・・

6月1日(月)には、本校体育館が映画館となりました。各校での上映活動に携わっている実行委員会の方のあいさつに引き続き、『蔵のある街』という昨年公開された地元倉敷を舞台とした映画が上映されました。

少年たちが倉敷の中心地(美観地区)で花火を上げると約束したことが、地域を巻き込んだ大きなプロジェクトに発展。コロナ禍に日本各地で開催され人々に笑顔をもたらした『サプライズ花火』のエピソードがもとになっているとのこと。

「やるべし、大いにやるべし。」これは倉敷紡績(クラボウ)初代社長大原孝四郎氏のことばです。既成概念にとらわれず、新しいことに挑戦する事の大切さを訴えた作中のこの台詞が印象に残っています。台風が近づく蒸し暑い中ではありましたが、生徒はみんな集中して鑑賞をしていました。



30年ぶりに・・・

上記の映画鑑賞会と同時間には、『クリエイティブTOWN岡山』の会合が本校で行われていました。30数年前、本校校舎を設計した神戸市の『いるか設計集団』の重村力主宰他10名の建築家等が、市や地域の要望に応えながら玉島の地に斬新な建物を建てていった経緯などを振り返っていました。この会に出席した岡本佳久教頭先生は、校舎や教室配置のいわれについて興味深く学習をしたそうです。重村先生からは、「教科教室型をしっかりと活用して下さい。」とのメッセージをいただきました。

